

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	福祉委員活動事業	会計	一般会計	事業No.	93	施策順No.	33-007
		事業種別	政策・その他	予算科目	3-1-1-16-1		
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり			課等名	福祉課		
施策	33 共に支えあう地域福祉の推進			事業期間	開始	S49	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	民生児童委員、主任児童委員						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
		民生児童委員数 人		203	203	203	208		
		主任児童委員数 人		24	24	24	24		
意図		地域で十分な活動ができる							
対象をどう変えるか		事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
		活動相談件数 件、訪問回数 回、調査・地域福祉・証明他件数等1人当たり年間平均件数	616	561	615	610	576	610	B
		一人あたり年間平均活動日数	165	162	164	165	154	165	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】		委員1人当りの実績であるため、12月に委員の一斉改選があり、併せて委員定数が5人増加したことの影響があると考えられる。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	民生委員法に基づき厚生労働大臣から委嘱された民生委員の活動に対し支援を行う。あわせて飯田市福祉委員として委嘱し、地域福祉活動を行うことに対し支援する。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 民生児童委員が地域に於いて展開する地域福祉推進のための活動に対し支援を行った。 2 3年に1回の改選の年であり、永く務められた委員を労うとともに、改選に係る事務を行った。 3 今回の一斉改選に合わせて、委員定数が5人増となった。	1 活動状況 (1)相談支援件数 (2)調査地域福祉活動証明件数 (3)訪問回数 (4)連絡調整回数 (5)活動日数 等年間延べ	(1)45回 (2)236回 (3)199回 (4)96回 (5)154日
23年度実施計画	1 民生児童委員が地域に於いて展開する地域福祉推進のための活動に対し支援を行う。	1 活動状況 (1)相談支援件数 (2)調査地域福祉活動証明件数 (3)訪問回数 (4)連絡調整回数 (5)活動日数 等年間延べ	(1)50回 (2)250回 (3)200回 (4)100回 (5)160日

3 事業コスト

事業費	特定財源	国庫支出金	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項	(県)民生委員活動費交付金(10/10)
		県支出金	14,718	14,850	15,014		
		起債					
		その他					
		一般財源	27,405	26,626	25,939		
		計(A)	42,123	41,476	40,953		
		正規職員所要時間		1,330			
		臨時職員等所要時間		30			
		人件費計(B)		4,788			
		トータルコスト A+B		46,264			

4 事業に対する市民や議会の意見

地区によっては民生児童委員の数を増やしてほしいという要望がある。 高齢化等に伴い地域の様々な課題が顕在化の中で、民生児童委員の活動への期待が高まっている。
--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	市民が共に日常生活を支え合う	施策の成果指標又はムトス指標	近隣で支え合いができていない市民の割合(%)
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	個人や世帯の生活課題を丁寧把握し解決に結び付けていくという民生児童委員活動を通じて、それらを地域としての捉えの中で課題としていくことでの役割を担ってきたと考えている。		
	後期に向けた課題	まちづくり委員会と良好に連携を図っていく。 地域福祉におけるまちづくり委員会との役割分担の明確化。		福祉ボランティア活動をしている市民の割合(%)
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	様々な研修の機会や、委員同士が情報交換できる機会づくりの支援や、様々な情報を提供することで、地区での自発的な活動の向上に寄与してきた。		
	後期に向けた課題	具体的な地域福祉課題を共有して、それらの課題解決に向けて協働して取り組んでいく。		
コストを削減するためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	委員が主体で行うことで、必要最小限のコストで行っている。		
	後期に向けた課題	引き続き、コスト低減に努める。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	各種活動における委員自身の負担の程度は適切であった。		
	後期に向けた課題	引き続き、現状を維持していく。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしてみましたか、又は、配慮してましたか	4年間の振り返り	地区全体の地域福祉課題については、民生児童委員のみでは成果は上がらない。各地区のまちづくり委員会との連携を図れるよう、行政としては各地区の自治振興センターが組織改善への支援を行ってきた。		
	後期に向けた課題	引き続き、自治振興センターを通じて支援していくとともに、改めて福祉のまちづくりについて、民生児童委員活動の啓発を含めてまちづくり委員会へ働きかけていくことが望まれる。		
全体を通じて	4年間の振り返り	平成19年度の地域自治組織の発足以来、まちづくり委員会は走りながら組織的な改善を図ってきて、ようやくこの新たな組織として、地域づくりに腰を落ち着けて取り組めるという機が熟してきた。		
	後期に向けた課題	まちづくり委員会と民生児童委員との関係は地区により様々で、良好な関係を模索してきた感があるが、各地区における福祉の課題を地区全体で認識してもらうところから、改めて地域福祉を構築していく必要がある。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	--